

氏名	阿 部 能 子
学位(専攻分野)	博 士(医 学)
学位授与番号	博 乙 第 2626 号
学位授与の日付	平成 5 年 9 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)
学位論文題目	Production of experimental staphylococcal impetigo in mice (マウスにおける実験的伝染性膿痂疹の作成)
論文審査委員	教授 小熊 恵二      教授 大森 弘之      教授 赤木 忠厚

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

マウスに経表皮的に *S. aureus* を感染させ、伝染性膿痂疹モデルを作成した。

Cyclophosphamide をあらかじめ投与した骨髓抑制マウスでは、菌塗布 1 時間めより角層下に水疱形成がはじまり、3 時間、6 時間と経時的に菌を伴った水疱形成が著明となった。好中球の浸潤は認められなかった。一方 Cyclophosphamide 処理を行わないマウスでは、3 時間後水疱形成がはじまり、6 時間後には多数の菌と好中球を伴った角層下水疱を形成した。電顕では、菌塗布 15 分後には、角質細胞中に菌がフィブリル様構造を介して接着する像が観察され、さらに 1 時間後には菌は顆粒層下部に侵入し、菌周囲の halo 様構造をともなって、表皮細胞をおしわけるように裂隙を形成し、12 時間後には、菌は基底層に達し、裂隙内に多数浮遊する像が観察された。

好中球の関与しない状態で、水疱形成がおこったことより、伝染性膿痂疹における水疱形成は、菌そのものの作用によって生じることが推測された。また、電顕上、感染後早期に限って菌表面のフィブリル様構造が観察されたので、この所見は感染成立における第一過程として重要であると考えられた。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はマウスに経皮的に菌を接種することにより、ヒトの伝染性膿痂疹のモデルを初めて確立したものであり、またこの系を用いることにより、好中球の関与なしに水疱形成

がおこることを発見したものであるので、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。